

令和5年度 第69回山形県高等学校PTA連合会研修会「村山大会」

- 1 主 題 「山形の未来を託す」
～子供たちを支えるためにPTAができること～
- 2 主 管 村山地区高等学校PTA連合会
- 3 期 日 令和5年6月9日(金)
- 4 会 場 寒河江市 ホテルシンフォニーアネックス
- 5 参加者数 研修会 178名(42校)
【庄内:26人・置賜:32人・最北:26人・村山86人】
- 6 内 容
 - (1) 開会行事 (13:00～13:30) 進行(天童高校PTA副会長) 奥山 仁
開会挨拶 県高P連副会長(山形東高校PTA会長) 渋江 朋博
【挨拶】 研修会実行委員長(左沢高校PTA会長) 大泉 和雄
県高等学校PTA連会長(山形東高校PTA副会長) 古沢 和明
【来賓祝辞】 県教育局教育次長 吉田 直史 様
県高等学校長会会長(山形東高校校長) 須貝 英彦 様
【来賓助言者紹介】 実行委員会事務局長(左沢高校校長) 高橋 俊彦
閉会挨拶 大会実行副委員長(寒河江高校PTA会長) 高子 英晴
 - (2) 研究発表 (13:35～15:05)90分 ※発表要旨別掲
進行(寒河江高校PTA会長) 高子 英晴
 - ①「ICT活用で生徒と保護者の新しい学び」
山形西高校PTA会長 中村 篤
 - ②「親と子の進路に関する意識調査」～親と子のコミュニケーションのあるべき姿を考える
東桜学館高校PTA会長 佐藤 啓壽
 - ③「致道館中学校・高等学校PTAに向けて」
鶴岡北高校PTA会長 後藤 衛
 - (3) 助言 戸沢村立戸沢保育園長(元県立村山産業高等学校長) 青柳 晴雄 氏
 - (4) 講演会 (15:15～16:35)80分 進行(上山明新館高校PTA会長) 大地 広志
開会挨拶
講師紹介 実行委員会事務局長(左沢高校校長) 高橋 俊彦
【演題】「高校生と保護者が今知っておきたい法知識」
【講師】古城博道法律事務所長 所長 古城 博道 氏
謝辞 (寒河江高校校長) 地主 好
閉会挨拶
 - (5) 大会宣言 (16:40～16:55) 進行(山辺高校PTA会長) 石澤 友啓
※宣言文別掲 起草委員会委員長(左沢高校PTA会長) 大泉 和雄
 - (6) 閉会行事 (17:00～17:15) 進行(山辺高校PTA会長) 石澤 友啓
開会挨拶 大会実行副委員長(寒河江高校PTA会長) 高子 英晴
【全体講評】 県教育局 生涯教育・学習振興課長 島貫 克彦 様

閉会挨拶	県高P連副会長(山形東高校PTA会長)	渋江 朋博
(7) 教育懇談会 (18:00～20:00)	進行(左沢高校PTA会長)	佐藤 尚史
開会	大会実行副委員長(山辺高校PTA会長)	石澤 友啓
挨拶	研修会実行委員長(左沢高校PTA会長)	大泉 和雄
	県高等学校PTA連会長(山形東高校PTA副会長)	古沢 和明
来賓祝辞	県高等学校長会会長(山形東高校校長)	須貝 英彦 様
乾杯	県高P連副会長(山形東高校PTA会長)	渋江 朋博
閉会	大会実行委員(寒河江工業高校PTA副会長)	真木 勇人

－研究発表要旨－

1. 山形県立山形西高等学校

発表題名 「ICT活用で生徒と保護者の新しい学び」

発表者 嚶鳴PTA会長 中村 篤

山形西高は今年度創立125年を迎える伝統ある学校である。本校は創立当初から「嚶鳴精神」を重んじ、高い理想をもった仲間や師弟の親睦友愛と切磋琢磨する姿を大切にされた教育活動を行っている。卒業生のほとんどは四年制大学へ進学し、社会の多方面でリーダーとなり活躍している。本校では、郷土を愛するとともに国内外で活躍できるグローバルな人材を育成するために、大学や地域社会と連携した探究型学習や、リーダーシップが十分に発揮できる生徒会活動が行われている。

また、変化が著しい現代に対応し、時代に求められる能力を備えた人材育成のためには、ICTを活用した情報活用能力が必要であるため、山形西高でもICTを活用した学習を積極的に推進している。デジタル社会においてICTの有効活用は必須であり、子どもたちの最適な学習のためにもその活用の仕方が重要となっている。今回嚶鳴PTAでは、ICT活用について、家庭と学校との連携という視点から、また、親子の学び合いという視点から考察した。

2. 山形県立東桜学館高等学校

発表題名 「親と子の進路に関する意識調査」

～親と子のコミュニケーションのあるべき姿を考える～

発表者 PTA会長 佐藤 啓壽

教育における学習指導要領の改訂や入学者選抜改革などの変革期にある今、高校生の進路選択にとって保護者の関わり方が重要になってきている。そこで、生徒と保護者双方に進路に対する意識調査を実施し、親子の適切なコミュニケーションや相談の在り方を探った。

調査方法は「さくら連絡網」のアンケートフォームを利用し、その回答を2021年の全国PTA連合会の全国調査と比較対照しながら分析を行った。

3. 山形県立鶴岡北高等学校

発表題名 「致道館中学校・高等学校PTAに向けて」

発表者 PTA会長 後藤 衛

令和6年度より鶴岡南高等学校と鶴岡北高等学校が統合し、致道館中学校・高等学校となる。令和5年2月3日に鶴岡北高等学校校長室に於いて、合同PTA三役会議を開催し、致道館中学校・高等学校PTA組織・活動について意見交換を行った。それぞれの学校PTAの組織や活動の違いを踏まえ、4つの会議・専門委員会を置くとともに、中高が連携した教育活動を推進するための合同会議を設けることも検討した。ここでは、令和6年度に開校する致道館中学校・高等学校PTA活動の円滑なスタートに向けて、両校のPTA相互理解と連携を深めるために開催することになった合同のPTA登校指導について紹介する。

大会宣言

本日、山形県高等学校PTA連合会（村山大会）は、「山形の未来を託す」～子供たちを支えるためにPTAが出来ること～を研修テーマとして県内のPTA会員がここ寒河江市に集い、第69回研修会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言から3年4カ月、この間充実した高校生活を実感できない多くの高校生の姿がありました。時を経て、分類移行から日々の活気ある生活が徐々に戻りつつあるものの、他方で一部の戦争等により物価の上昇など日常生活に大きな影響をもたらしています。この研修会では、子供たちの教育に関わる家庭、学校、社会の連携を深めることを目的としています。現在、PTA活動に様々な意見があることは承知しておりますが、保護者と教師が協力して子供たちの教育を支援する社会教育団体であるPTAの活動に参加することで、子供たちの成長が見られるだけでなく、仲間ができたり、学校がよくわかったりするメリットがあります。しかし、日本においては、子どもの貧困や子育て支援の不足などが深刻な問題となっています。子供たちの未来を守るためには、政府や社会だけでなく、私たち一人ひとりができることを考えて行動する必要があります。

そこで、「山形の未来を託す」～子供たちを支えるためにPTAが出来ること～では、以下のような内容について学びました。

- ・子供たちがいま知っておきたい法知識
- ・親と子のコミュニケーションのあるべき姿を考える
- ・ICT活用で生徒と保護者の新しい学び
- ・致道館中学校・高等学校PTAに向けて

これらのテーマは、子供たちの幸せや将来に関わる重要なものです。私たちは、PTA活動を通して、子供たちに必要な知識やスキルを伝えたり、良い生活習慣や人間関係を築く手助けをしたりすることができます。本県高等学校PTA連合会が、さらに実りある活動を展開することを誓い、以下のことを宣言します。

記

1. 私たちは、子どもたちが、自他の命を尊重し大切にしようとする心情や態度を身につけてくれることを願っています。そのために、山形の豊かな自然とそこに息づく「いのち」を大切にしてきた文化を次世代へ継承し、心身の調和のとれた「いのち輝く人」の育成に努めます。
1. 私たちは、夢や希望を持って、その実現に向けて行動し続ける子どもたちのために、学校・家庭・地域がお互いの役割を確認するとともに、それぞれの強みを生かした「協働的な学び」を連携して推進し、個々の能力を最大限に伸ばすためのよりよい環境づくりに努めます。
1. 私たちは、先人が受け継ぎ、守り育んできた山形の素晴らしい文化などに親しみ、未来を思い、発展させていこうとする子どもたちの気持ちを大切にします。そして、地域と深くかかわることで人間関係の輪を広げ、地域社会の一員としての自覚と創造力を高めようとする意欲や態度を醸成するとともに、子どもたちの活動を支えるように努めます。

第69回山形県高等学校PTA連合会研修会（村山大会）にて宣言します。

令和5年6月9日

山形県高等学校PTA連合会

令和5年度 第69回山形県高等学校PTA連合会研修会 村山大会

決 算 書

令和5年8月31日

収入の部

単位:円

項 目	令和5年度 予算額	令和5年度 収入済額	増 減	備 考
1 参加料	540,000	434,700	△ 105,300	@2,700×161名
2 県補助金	200,000	200,000	0	県高P連より
3 地区補助金	100,000	100,000	0	村山地区高P連より
4 雑収入	1,000	1	△ 999	預金利子
合 計	841,000	734,701	△ 106,299	

支出の部

単位:円

項 目	令和5年度 予算額	令和5年度 支出済額	増 減	備 考
1 事務費	250,000	183,153	△ 66,847	
(1) 消耗品費	50,000	31,658	△ 18,342	角印、ゴム印、事務用品等
(2) 通信費	20,000	0	△ 20,000	
(3) 会議費	50,000	0	△ 50,000	
(4) 旅費	10,000	3,105	△ 6,895	事務局員旅費
(5) 印刷費	120,000	148,390	28,390	大会プログラム、発表資料等
2 運営費	580,000	551,548	△ 28,452	
(1) 会場費	320,000	319,450	△ 550	会場使用料等
(2) 接待費	130,000	59,550	△ 70,450	参加者お茶、発表者・スタッフ弁当
(3) 講演費	100,000	65,698	△ 34,302	謝礼、費用弁償
(4) 役務費	30,000	106,850	76,850	運営協力費(村山地区関係校へ)ほか
3 雑 費	10,000	0	△ 10,000	
4 予備費	1,000	0	△ 1,000	
合 計	841,000	734,701	△ 106,299	

収入済額 734,701 円 支出済額 734,701 円 差引 0 円